

CR3™ • CR4™

Creative Reference™ Multimedia Monitors

日本語
オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	警告 この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。
	注意 この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。

		「必ず守ってください」という強制を表しています。
		「絶対にしないでください」という禁止を表しています。

	警告
---	-----------

	警告
---	-----------

**本書をすべて読むこと**
この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。

**電源コードを濡れた手でさわらないこと
感電の原因になります。**
禁止

**専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること**
適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。本機は100V専用モデルです。日本国外での使用はできません。

**大音量で使用しないこと**
この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。

**水分をかけたり湿気にさらさないこと**
この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所に置かないでください。また湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。

**移動するときはケーブルをすべて抜くこと**
電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを傷めたり、周囲の方が転倒する原因になります。

**電源コードは安全に配置すること**
電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っかけるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。

**本体内部に液体や物を入れないこと**
火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

**本体を落下しないこと**
本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。

**製品を分解したり改造しないこと**
火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。

**本体の換気用開口部をふさがないこと**
本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。

警告



必ず実行

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること
正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



必ず実行

長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと
火災や感電、故障の原因になる場合があります。



必ず実行

本体を移動するときは適切な人数で作業すること
移動の際は必ず適切な人数で作業を行ってください。その際、つま先や指などを挟まないようご注意ください。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと
ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



禁止

このスピーカーを吊り下げないこと
製品が落下して、近くにいる方が死亡または負傷する原因になる場合があります。このスピーカーは吊り下げて使うようには設計されていません。



必ず実行

他の機器やスピーカーと接続するときはあらかじめアンプの電源を切っておくこと
接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものをを使うこと
適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。

注意



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること
本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと
この製品を直射日光が当たる、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないでください。本体が故障する原因になります。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと
本体の故障やお使いになる方がけがをする原因になる場合があります。



禁止

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと
この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること
定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する原因になります。特に歪みにはご注意ください。

修理

- 日本仕様のMackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。
- テクニカルサポートに電話でまたは、support_mackie@otk.co.jpにメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812へFAXしてください。折り返しRA番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票をFAXで返送いたします。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないください。修理には必要がありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 必ず、RA 番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。
- 保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照ください。

保証

- 本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損傷

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒 359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

(株)サヤマトラフィック 敷地内

☎ 04-2944-3811

 04-2944-3812

 support_mackie@otk.co.jp

営業時間

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30

休業日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

営業窓口

東京

東京都中央区日本橋小伝馬町10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

 03-3639-7801

大阪

大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

 06-6152-7752

名古屋

名古屋市東区泉1-23-30

☎ 052-950-3324

 052-950-3325

福岡

福岡市南区大橋4-16-18-201

☎ 092-554-6066

 092-554-6064

営業時間

月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

 sales_mackie@otk.co.jp

Contents

機能	1
はじめに	2
クイックスタート	2
接続図	3
リアパネルの機能	5
1. 電源コード	5
2. 電源スイッチ	5
3. シグナルインプット	5
4. パワードスピーカー ポジションセレクトスイッチ	6
5. 配線ターミナル (±)	6
6. リアポート	6
フロントパネルの機能	6
7. Aux インプット	6
8. ヘッドフォンアウト	6
9. ボリュームノブ	6
インプットシグナルワイヤリング	7
お手入れとメンテナンス	7
付録A: サービスについて	8
付録B: 技術情報	9
CRシリーズ仕様書	9
CRシリーズ寸法	10
CRシリーズブロックダイアグラム	11

CR3・CR4の機能

- マルチメディア制作にも最適なスタジオクオリティーの音質
- 高音質を実現するプロ仕様コンポーネント
 - 50W 出力のクリーンなステレオサウンド
 - ポリプロピレンコーティング ウーファー
 - 3 インチ [CR3]
 - 4 インチ [CR4]
 - 0.75 インチ磁性流体冷却式 シルク ドームツイーター
- 幅広い周波数帯域で正確なサウンドを実現
 - 80Hz-20kHz [CR3]
 - 70Hz-20kHz [CR4]
- スピーカーポジションセクターで LR を設定できるので
机の左右のどちらにでもボリュウムノブ付きスピーカーを
配置可能。
- ボリュウムコントロールと電源のオン/オフをフロントパ
ネルの LED 付きボリュウムノブで操作可能
- スピーカーのフロントにスマートフォン (またはその他の
音源) 用の接続端子付き
- ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを差し込むとスピー
カー出力がキャンセルされボリュウムノブはヘッドフォン
の音量を調整します。
- ウェーブガイドデザインによりどの音量でもクリアな音質
を再生します。
- 最適化されたリアポートがスムーズな低域再生を実現しま
す。
- 木製キャビネットを採用し、原音に忠実なサウンドを実現
- 付属品
 - アイソレーションパッド: 不要な低域の鳴りを抑え定
位感を向上させます。さらにリスニングポジションに
最適な高さに調整もできます。
 - コンピューターとスピーカー接続用のステレオミニ -
RCA ケーブル
 - スマートフォンやポータブルプレーヤーを接続するス
テレオミニケーブル
 - スピーカー - スピーカーケーブル



Like us



Follow us



Watch our dang videos

はじめに

クリエイティブリファレンス™ シリーズは省スペースながらスタジオクオリティの音質とスペックを実現したマルチメディアモニターモニタースピーカーです。

最大出力**50W**のハイパワーと優れた高域再生を実現する高域ウェーブガイドを搭載。正確な音質によりどのような用途にも対応します。

CRスピーカーはポジションセレクトスイッチを搭載しています。ボリュームノブやスマートフォン再生用接続端子が付いている方のスピーカーを机のどちら側に配置するかを選択できます。さらに、CRスピーカーにはケーブルやアコースティック アイソレーションパッドも付属しているので箱から出してすぐにお使いいただけます。

クリエイティブリファレンス™ シリーズはプロクオリティの音質、デスクへ配置しやすい柔軟性に優れたデザインを兼ね備えています。仕事やプライベート、様々な場面でご利用ください。

このマニュアルの使い方

このあとに続くクイックスタートガイドでは本機を設定するための手順が説明されています。接続例では典型的な使用例を紹介し、残りのページでCR3とCR4モニターの詳しい使い方についてご説明します。



このアイコンはこのミキサーで特に重要、あるいは独自の情報に付いています。よく読み、覚えておくと良いでしょう。

クイックスタート

すぐにでもCRシリーズを箱から取り出して音を出してみたいところですが、このページだけは読んでくださいね。残りのページは必要になった時で構いません。

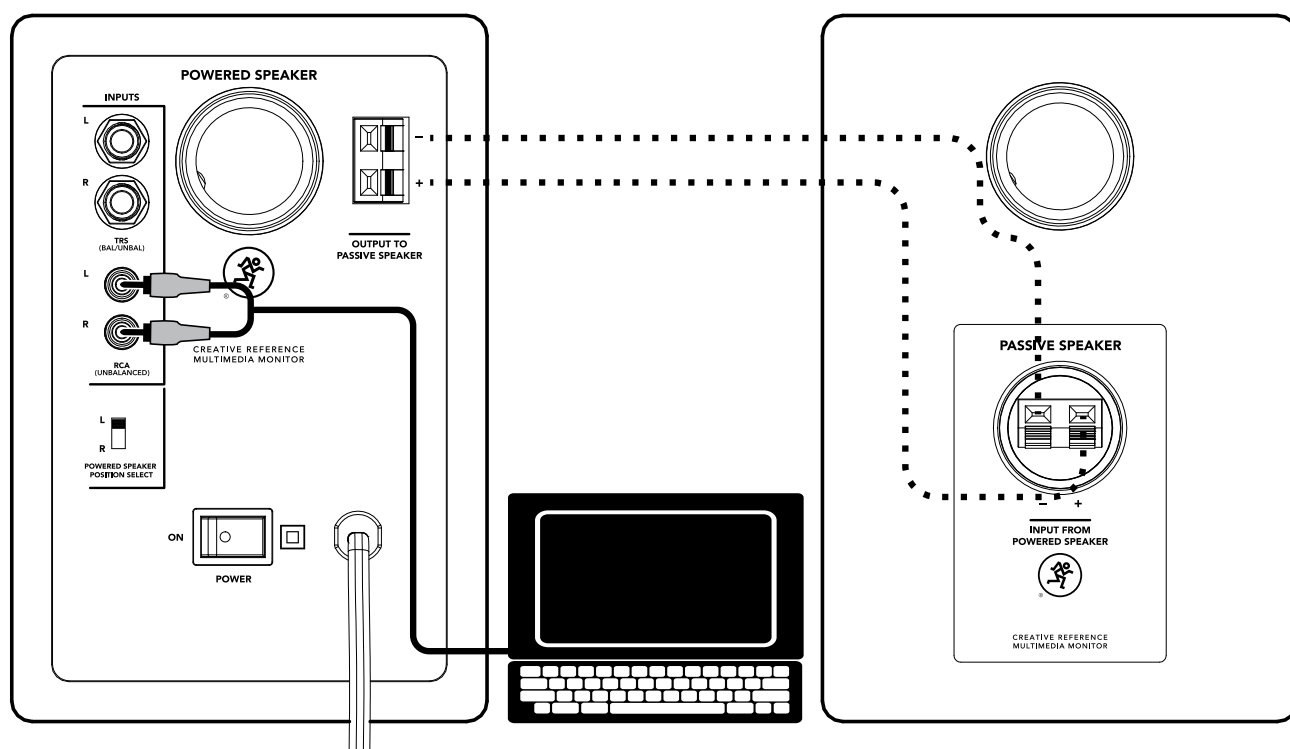
1. 初めて電源を入れる時は、フロントのボリュームを反時計回りに回し、最小の位置にセットしてください。
2. ケーブルを接続した時に突然大きな音がでて驚くことがないように、スピーカー背面のスイッチがオフになっている事を確認します。
3. コンピューター、ミキサー、またはその他の音源からのライン出力をCRスピーカーのリアパネルのTRS、RCAインプットに接続します。
4. パワードモニター側(電源スイッチがあるスピーカー)の黒(−)と赤(+)のスプリングクリップをパッシブモニター側(スイッチが無いスピーカー)の黒(−)と赤(+)のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。
5. 電源コードを電源コンセントに接続してください。本機は100V専用モデルです。日本国外での使用はできません。
6. コンピューター、ミキサー(または他の音源)の電源を入れます。
7. スピーカーの電源を入れます。
8. フロントのボリュームノブを時計回りにノブがクリックするまで回します。ボリュームノブの回りを囲ったLEDリングが点灯します。
9. 音源を再生し聞きやすい音量になるようにボリュームを調整します。

残りのページにもCRモニターに関する様々な情報が記載されていますので意欲のある方はぜひ読み進めてください。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聞くと難聴の原因となる恐れがあります。
- 一般的にミキサー(または他の音源)の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切る時はそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。こうすることで電源を入れるまたは切る時にノイズが発生しにくくなります。
- 外箱や同梱物は保管してください。将来必要になる場合があるかもしれません。ペットの遊び道具になってしまうかもしれませんが、その時は一緒に遊んであげてください。
- 保証書は大切に保管してください。

接続図



上のイラストは **CR** シリーズリファレンスモニターの典型的な使用例を示したものです。仕事に音楽を聞きたくなりますよね。…え！私だけでしょうか？

この例でご紹介する接続はとっても簡単です。コンピューターのステレオミニジャックと **CR** シリーズリファレンスモニターの **RCA** インプットの **L/R** を付属のケーブルで接続します。**RCA** インプットの代わりに **1/4** インチインプットに接続することもできます。

次にパッシブスピーカーを接続します。付属の黒 (－) と赤 (＋) スピーカーケーブルでパワーモニターの ± スプリングクリップとパッシブモニターの ± スプリングクリップを上イラストの点線のように接続します。

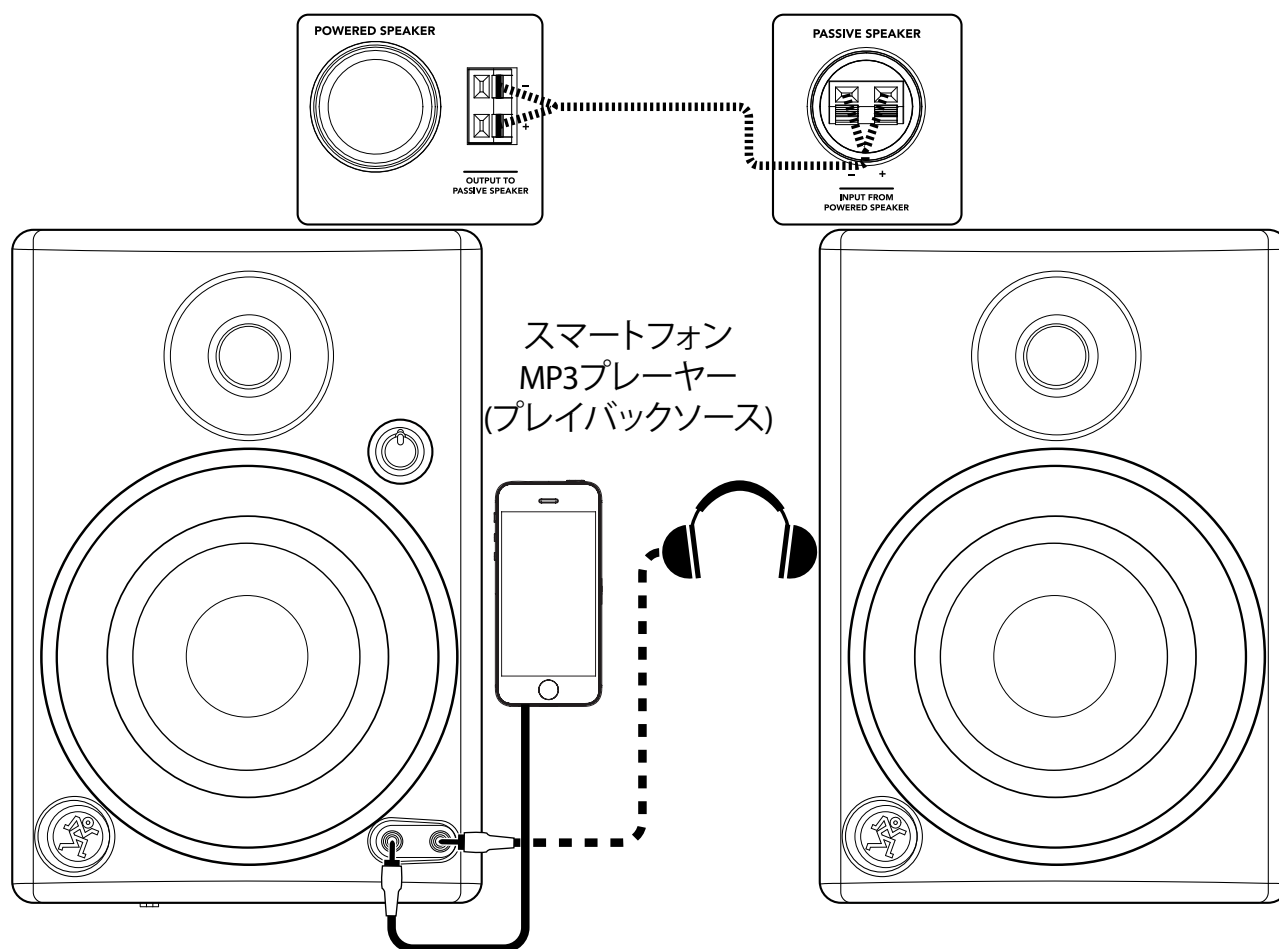
黒 (－) は黒 (－)、赤 (＋) は赤 (＋) に接続してください。

ゴールまでもうすぐです。パワースピーカーポジションセレクトスイッチを **L** と **R** のいずれかにセットします。パワーリファレンスモニター (ボリュームノブが付いている方) を机の左に配置した場合は **L**、右に配置した場合は **R** にセットしてください。

次にモニターをお好きな場所に配置します。**PC** とモニターのボリュームを”0”以上にセットして **PC** の音源を再生します。

最後にモニターを動かしながら最適な音が得られる位置に配置し、音量を調整します。

接続図..



上のイラストは **CR** シリーズリファレンスモニターのもうひとつの使用例としてスマートフォンの音源を再生する接続例を紹介します。

きっと皆さんの友人の中にも自分のプレイリストをシェアしたがる人が一人位いませんか？音楽の好みが合わなければ乗り気はしませんが、そういう経験はあるかと思います。

この例でご紹介する接続はとっても簡単です。スマートフォンのステレオミニジャックと **CR** シリーズリファレンスモニターのフロントパネルにある 1/8 インチ **Aux** インプットを付属のケーブルで接続します。

次にパッシブスピーカーを接続します。付属の黒 (－) と赤 (+) スピーカーケーブルでパワーモニターの ± スプリングクリップとパッシブモニターの ± スプリングクリップを上イラストの点線のように接続します。

黒 (－) は黒 (－)、赤 (+) は赤 (+) に接続してください。

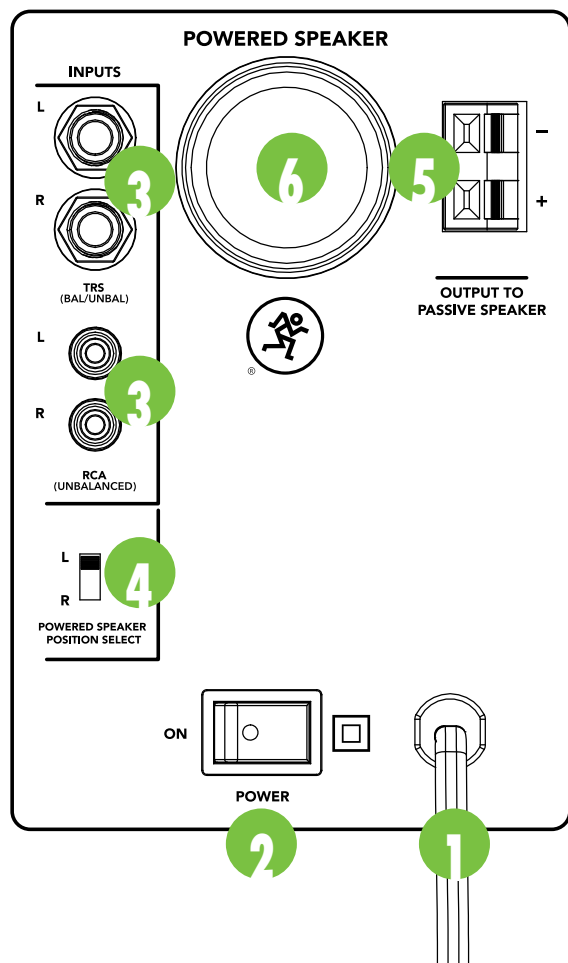
ゴールまでもうすぐです。パワースピーカーポジションセレクトスイッチを **L** と **R** のいずれかにセットします。パワーリファレンスモニター (ボリュームノブが付いている方) を机の左に配置した場合は **L**、右に配置した場合は **R** にセットしてください。

次にモニターをお好きな場所に配置します。**PC** とモニターのボリュームを”0”以上にセットして **PC** の音源を再生します。

最後にモニターを動かしながら最適な音が得られる位置に配置し、音量を調整します。

ヒント：ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを差し込むとスピーカー出力がキャンセルされボリュームノブはヘッドフォンの音量を調整します。

リアパネルの機能



1. 電源コード

電源コードを電源コンセントに接続してください。本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。

2. 電源スイッチ

このスイッチを左側に押し込むと CR リファレンスモニターシリーズの電源がオンになります。スイッチをオンにする時はまずボリュームノブ [9] がオフ (反時計回りに回しきった状態) になっていることを確認します。コンセントに電源コードを差し込むとボリュームノブを囲むリング形状の LED が点灯し、電源スイッチがオンになります。フロントパネルのボリュームノブをクリックするまで時計回りに回します。

このスイッチを右側に押し込むと CR リファレンスモニターシリーズがスタンバイモードになります。スタンバイモードでは機器は待機状態になり稼働しませんが回路はアクティブのままです。電源を完全に落とすには電源コードを抜いてください。

3. シグナルインプット

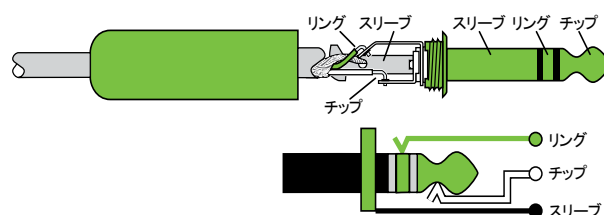
コンピューター、ミキサー、またはその他の音源からのライン出力を CR スピーカーのリアパネルの入力端子に接続します。端子には 2 つのタイプがあり、バランス、アンバランスソースを接続できる 1/4 インチ TRS インプットとアンバランスソースを接続できる RCA インプットが用意されています。これらのインプットは電氣的に接続されているので一度に接続できるのはいずれかひとつの端子のみになります。

6m 以上のケーブルを使用する場合はノイズに強いバランスケーブルを使用してバランス伝送の事をお勧めします。

ケーブルの配線は、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

バランス 1/4" TRS コネクター

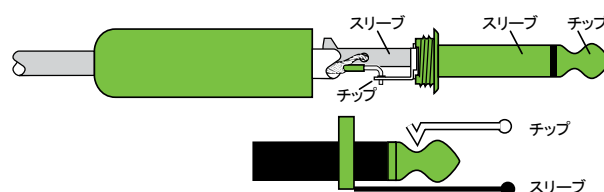
スリーブ=シールドまたはグランド
チップ=陽極 (+またはホット)
リング=陰極 (-またはコールド)



バランス1/4インチTRSコネクター

アンバランス 1/4" TS コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド
チップ=陽極 (+またはホット)



アンバランス1/4インチTSフォーンコネクター

アンバランス RCA コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド
チップ=陽極 (+またはホット)



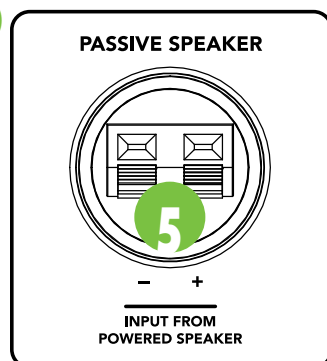
アンバランスRCAコネクター

4. パワースピーカー ポジションセレクトスイッチ

このスイッチで電源コードがついているパワースピーカーを机の左側（スイッチアップ）に配置するか右側（スイッチダウン）に配置するかを決定します。この機能があることでコンセントの位置に縛られることなく、コントロールが付いているスピーカーを左右どちらに配置するかを決める事ができます。左利きの方も右利きの方も関係なく自由にスピーカーを配置できます。

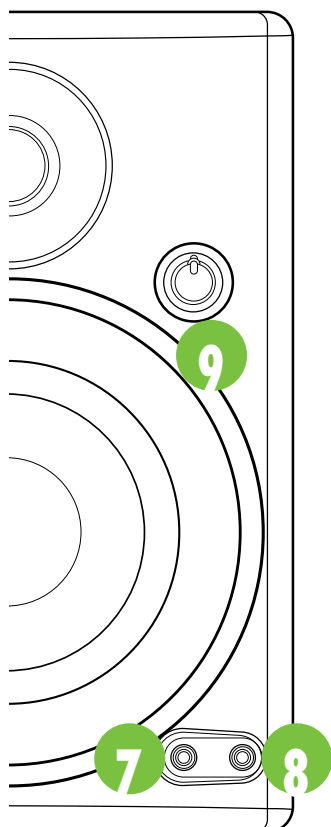
5. 配線ターミナル (±)

パワードモニターのスプリングクリップとパッシブモニターの ± スプリングクリップ（右図の緑の⑤）を付属の赤黒ケーブル [黒 (-)、赤 (+)] で接続します。



6. リアポート

リアパネルに特性に合わせて設計された穴を開けてウーファーコーンの後面からでる低域の音波を反転させて正相として放射させることで低域レスポンスを向上させています。穴のサイズはキャビネットのボリュームとウーファーの特徴に合わせて最適な大きさ設計されています。



フロントパネルの機能

7. Aux インプット

この端子には MP3 プレーヤーやスマートフォンなどをステレオミニプラグを使用して接続できます。

ケーブルの配線は、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

ステレオ1/8インチTRS

左チャンネル	チップ=陽極 (+またはホット)
右チャンネル	リング=陰極 (-またはコールド)
グラウンド	スリーブ=シールド

8. ヘッドフォンアウト

この 1/8 インチ TRS コネクターからはヘッドフォン出力が供給されます。ボリュームはボリュームノブ [9] で調整できます。ヘッドフォンを差し込むとパワーアンプへの信号は切断されます。

ヘッドフォンアウトの配線は、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

ステレオ1/8インチTRS

左チャンネル	チップ=陽極 (+またはホット)
右チャンネル	リング=陰極 (-またはコールド)
グラウンド	スリーブ=シールド



警告：このヘッドフォンアンプは、かなりの音量で再生される場合があるため、難聴の原因となる場合があります。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛いほどの音量となります。

ご注意ください！ ヘッドフォンを Phones ジャックに接続する前に、必ずボリュームノブを下げて、音楽を再生しながらゆっくりと音量を上げていきます。

9. ボリュームノブ

CR シリーズ リファレンスモニターにはラインレベルの信号を入力してください。このノブはシグナルの入力感度を調整します。

このノブはボリューム調整だけでなく、モニターのオン/オフスイッチとしても機能します。反時計回りいっぱいをクリックするまでノブを回すとモニターはオフになり、時計回りに回すとボリュームを上げることができます。コンセントに電源コードを差し込むとボリュームノブを囲むリング形状の LED が点灯し、電源スイッチがオンになります。

レベル設定の手順は 3 ページのクイックスタートをご覧ください。

インプットシグナルワイヤリング

CR シリーズ リファレンスモニターには下記のアクセサリが付属します。

- PCとスピーカーを接続する1/8インチステレオミニ-RCA 変換ケーブル
- スマートフォンとスピーカーを接続する1/8インチステレオミニケーブル
- スピーカー - スピーカーケーブル

ケーブルが付属していたとしても別のケーブルがいつかは必要になるでしょう。[例えばペットと綱引きしたり、子供が鞭として使ったり、出血時の止血帯として使われたり等] もしくは 1/4 インチインプットの方を好んで使うかもしれません。その場合は高品質なシールドケーブルを別途ご用意願います。

この 3 つのタイプのコネクタは一般的なケーブルであればほとんど全てのタイプを接続可能です。

- 1/4 インチインプットにはバランス TRS / アンバランス TS ケーブルを接続できます。
- RCA インプットにはアンバランスフォノケーブルを接続できます。
- 1/8 インチインプットにはバランス TRS ケーブルを接続できます。

NOTE: 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。これらはハムノイズの原因になります。

NOTE: ホームシアター環境などで、ステレオレシーバーがプリアンプアウトやラインアウトを備えていない場合のみ、レシーバーのスピーカーアウトを使用してください。



注意: スピーカーアウトからのシグナルを直接 CR シリーズリファレンスモニターに接続しないでください。スピーカーレベルはラインレベルよりはるかに高いレベルなので直接接続すると CR スピーカーの入力回路にダメージを与える事になります。

レシーバーのスピーカーアウトと CR モニターを接続する場合は間にアッテネーターを挟んでください。アッテネーターはお近くの機器販売店でお買い求めいただけます。

お手入れとメンテナンス

CR シリーズリファレンスモニターは、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- このスピーカーを霧にさらさないでください。野外で使用する場合は、雨がかからないようカバーしてください。
- 極端に温度が低い場所 (氷点下) に置かないでください。
- キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使いください。

付録A:サービスについて

CR シリーズリファレンスモニターに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- **Mackie** お気に入りの質問。AC コードを接続してありますか？
- 電源ケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。
- ボリュームノブ [9] の周りのリング状の LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認して下記の「音が出ない」をご覧ください。

音が出ない

- ボリュームノブ [9] の周りのリング状の LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認して上記の「電源が入らない」をご覧ください。
- ボリュームノブ [9] は上がっていますか？
- もしボリュームノブが上がっていれば、PC、ミキサー、MP3 プレーヤー、スマートフォンから十分な音量が出力されているかを確認してください。
- ステレオペアとして使用している場合は、左右のスピーカーを入れ替えてみてください。例えば左のスピーカーから音が出ないと仮定した場合、スピーカー側で左右のケーブルを入れ替えて、音がなった場合は、原因はスピーカー本体ではなく、ケーブルや音源に問題がある事が考えられます。

音が良くない

- 入力コネクタがジャックに最後までしっかり挿し込まれていますか？
- 音量が大きくて歪んでいますか？音源の音量が適切なレベルに調整されているか確認してください。
- 可能であればヘッドフォンでプリアンプ段の音を確認してください。そこで音が悪ければ原因はモニター以外が考えられます。
- 低域が出過ぎている、もしくは低域が足りないと感じる場合は部屋の形状によって低域がブーミーになったり、逆に薄くなる場合があります。モニターの配置場所を変えて最適なポジションを探してみると改善される場合があります。

ノイズ/ハム/バズ

- スピーカーに対するすべての接続で問題がないことを確認してください。ケーブルがしっかり接続されていないとノイズの原因になる場合があります。
- CR シリーズリファレンスモニターへの接続がアンバランスの場合、信号源のシールドはグラウンドに接続されしてください。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。ハムノイズの原因になります。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用ディマーやSCRベースの機器を接続していませんか？ AC電源フィルターを使うか、スピーカーを別のAC電源回路に接続してください。
- ヒスノイズが発生している場合、スピーカーへ入力される前の段階でゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- 可能であれば、ヘッドフォンでも音を確認してください。そこでノイズが聞こえる場合は原因はモニターではありません。

ご不明な点は...

- [www.mackie.com / jp](http://www.mackie.com/jp)
にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp
までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
日本語 04-2944-3811（月～金曜、9am～6pm）
英語 1-800-898-3211（月～金曜、営業時間 PST）

付録B: 技術情報

CR シリーズ仕様書

音響特性

周波数特性 (−3 dB)	80 Hz – 20 kHz [CR3] 70 Hz – 20 kHz [CR4]
周波数特性 (−10 dB)	70 Hz – 20 kHz [CR3] 60 Hz – 20 kHz [CR4]
最大ピーク音圧レベル (ペア)	97 dB [CR3] 100 dB [CR4]
クロスオーバー周波数	3 kHz

トランスデューサー

低域ユニット [CR3]	3.0インチ / 76 mm ポリプロピレン コーティング ウーファー
[CR4]	4.0インチ / 102 mm ポリプロピレン コーティング ウーファー
高域ユニット	0.75インチ / 19 mm シルク ドームツイーター

アンプ

定格出力	28 W rms 50 W ピーク
動作方式	クラス AB

インプット/アウトプット

入力端子	バランス / アンバランス 1/4 インチ TRS, アンバランス RCA [リア] 1/8 インチ TRS [フロント]
入力インピーダンス	20 k Ω , バランスブリッジング 10 k Ω アンバランス
出力端子	1/8 インチステレオヘッドフォン [フロント]

必要電源

米国	120 VAC, 60 Hz
ヨーロッパ	220 – 240 VAC, 50 Hz
韓国	220 VAC, 60 Hz
日本	100 VAC, 50/60 Hz
消費電力	72 W (大音量音楽再生時)

Note: 本機は100V専用モデルです。日本国外での使用はできません。

構造

形状	長方形
エンクロージャー	ソリッドMDF
仕上げ	ブラックビニールラップ
ハンドル	無し
ポート構成	カスタム設計リアポートチューブ
吸音材	断熱性綿
フロントLED	パワーリング (ボリュウムノブ周辺)
動作温度	0 – 40 °C 32 – 104 °F

寸法・重量

CR3

寸法	
高さ	208 mm
幅	140 mm
奥行き	158 mm
重量	4.1 kg [ペア]

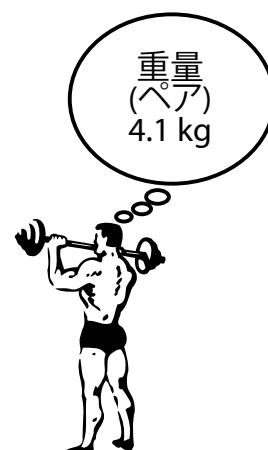
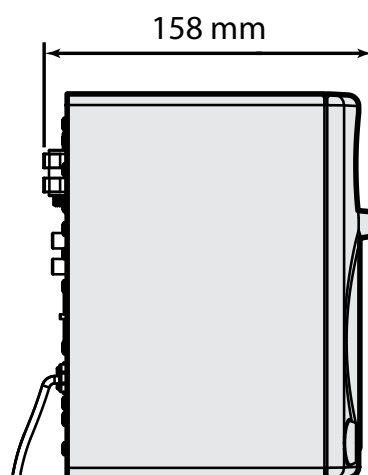
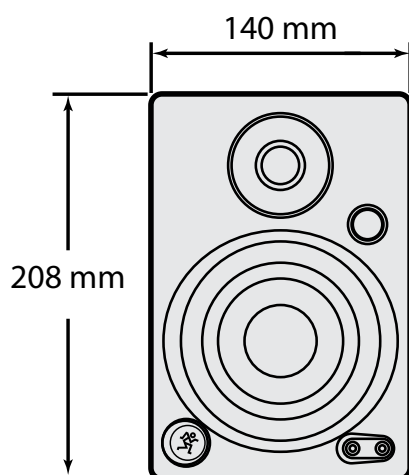
CR4

寸法	
高さ	224 mm
幅	156 mm
奥行き	185 mm
重量	5.4 kg [ペア]

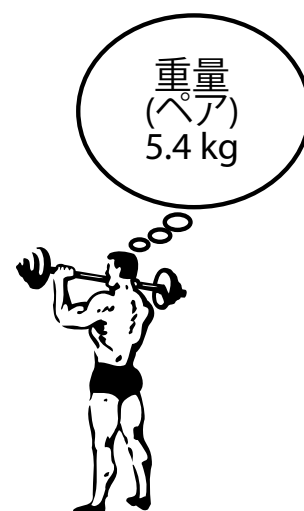
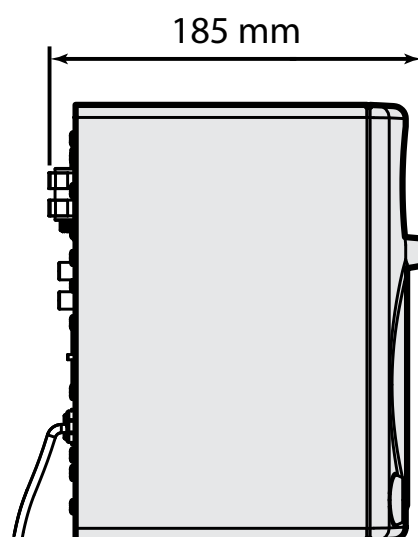
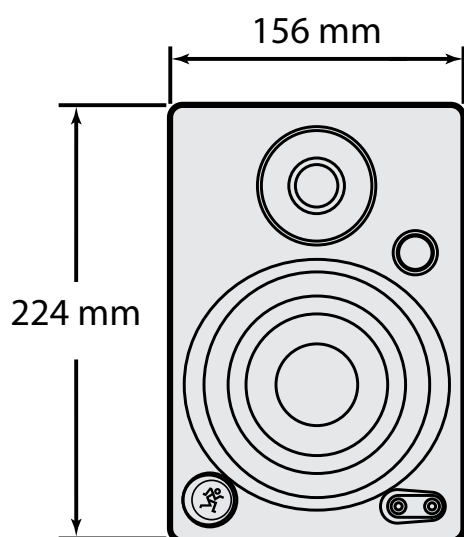
LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」は LOUD Technologies 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

CR3 寸法



CR4 寸法



CRシリーズ ブロックダイヤグラム

